

令和7年度組織目標

部局名	健康医療福祉部
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○ 健康長寿日本一を目指した健康づくり</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に高齢者人口がピークを迎える2040年を見据え、シニア世代の活躍を支えるため、居場所づくりや就労支援、動物の癒しや食の力を活かした取組、認知症にやさしい地域づくりなどを通じて、「いきがい」や「つながり」を生み出し、健康で意欲的に暮らす高齢者の増加を図ることで、健康寿命の延伸を目指す。 ・わたSHIGA輝く国スポ・障スポを契機に、多様性への理解を進め、合理的配慮の定着を図るとともに、生きづらさのある人を含むすべての人が、地域で自分らしく活躍できる共生社会の実現に向けた取組を推進する。
	<p>○ 2040年を見据えた医療福祉のひとづくり</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉拠点の実現に向けて、人材育成機能、センター機能、賑わいの形成に一体的に取り組む。 ・2040年を見据え、医療福祉人材の確保・定着に向けて、それぞれの職種に応じたひとづくり、ひとそだての取組を推進するとともに、目標や課題を改めて整理し、全体のロードマップの検討を行う。
	<p>○ 戦後80年からその先に向けた土台づくり</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争のない平和な未来をつくるため、若い世代とともに、戦争の悲惨さや平和の大切さを次の10年、20年、さらにはその先の未来へと語り継ぐための取組を推進する。
	<p>○ CO2ネットゼロに向けた取組の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）第二大津合同庁舎や衛生科学センターの整備にあたっては、ZEB Ready以上の水準を基本方針とし、エネルギー効率の高い施設の実現に向けて着実に取り組む。

所属名	健康福祉政策課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○戦後80年から今後10年の取組に向けた土台づくり</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進事例を踏まえた「令和の語り部」育成プログラムの構築 ・未来につながる湖南省との平和交流事業の実施 ・広島・沖縄との平和関連施設等との連携促進
	<p>○共生社会の実現に向けた取組の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体や市町等の意見、再犯防止にかかる地域支援ネットワーク普及の視点などを踏まえた滋賀県地域福祉支援計画の改定 ・福祉人材のロールモデルとなる「滋賀の福祉人」づくりの推進【階層別研修の修了者：200人】
	<p>○【見直し・効率化】ICT、AI等の積極的な活用による業務効率化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課内のDX推進チャレンジャーの養成【3人】 ・文書管理システムの完全電子決裁の推進【課内全員1回以上】

所属名	医療政策課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○医療人材の確保・育成</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の看護職の養成や県内定着について、関係者が参加する会議や、医療機関、学生の実態を調査・分析することにより、修学資金の見直しや他の確保策について検討し、看護職確保や県内定着、復職支援等の施策を整理する。 ・ 医療従事者の負担軽減を図るため、医療機関におけるICT機器等の先進技術の導入に対する支援を検討する。
	<p>○県内のどこでも安全・安心して医療が受けられる環境の整備</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期医療について、病院と診療所を結ぶ遠隔診療をモデル的に実施し、他圏域への展開を見据え、導入効果を検証する。 ・ #7119の円滑な導入、運用を進める。
	<p>○【見直し・効率化】効率的な会議の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の目的や内容を精査し、効率的な会議を実施する。 ・ 資料のペーパーレス化を進める。

所属名	健康危機管理課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○災害・感染症等に機動的に対応できる健康危機管理体制強化</p> <hr/> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉調整本部の強化とリスクコミュニケーション推進【R7.7～R8.2 フェーズを踏まえた災害医療訓練の実施】 【R7.11：感染症を考える月間によるリスコミ促進】 ・高齢者・障害者施設の感染リーダーネットワーク構築【Shiga HAI-Netのフォローアップ研修受講率 80%】 【全保健所圏域でリーダー間ネットワークの構築】 ・実効的な県新型インフルエンザ等対策行動計画の改定【計画に基づく訓練の実施、各種マニュアルの改定】
	<p>○衛生科学センターの機能強化</p> <hr/> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインビルド方式の最適な事業者選定【R8.1 契約締結】 ・大学・民間と連携した取組の創出【3事業】
	<p>○【見直し・効率化】</p> <p>事務効率化の推進：ノーコードアプリ、AI等の活用による業務効率化</p> <hr/> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した各種研修・訓練の実施 ・文書管理システムによる100%電子化

所属名	健康しが推進課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○「大阪・関西万博」や「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」と連携した健康づくりの推進</p> <p>目標： ・大阪・関西万博、わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催を契機に、市内のあらゆる部局や企業・大学等と連携を図り、県民が楽しみながら健康づくりを習慣化できる取組を増やす。（目標値：取組数5以上）</p>
	<p>○健康データやAIを活用した健康づくりの推進</p> <p>目標： ・データを活用した健康づくりを一層進めるため、健康推進アプリ「BIWA-TEKU」から得られる健康データ等をAIを活用して分析し、生活習慣改善策を提案する実証試験のシステムを構築するとともに、県内中小企業等の参加を募り、企業の健康経営と参加者の行動変容を促進する。</p>
	<p>○【見直し・効率化】効率的な会議運営とチェック体制の強化</p> <p>目標： ・Web会議等を活用して効率的な会議運営を行うほか、協議資料を事前に共有することで協議時間の短縮を図る。 ・個人情報の漏洩を防止するため、ホームページ掲載やメール送信等を行う場合、チェックシートを活用し、複数人による確認を確実にを行う。</p>

所属名	医療福祉推進課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○滋賀の医療福祉を支えるサービス提供体制の確保</p> <p>介護従事者を確保し、将来の介護職員数需給ギャップを0にするため、</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子ども・若者世代が介護を身近に感じていただく機会を作る。 ②元気高齢者の介護現場への参入を推進（介護助手等への活用） ③介護従事者にとって「働き続けたい」魅力ある職場づくりを進める。 ④外国人人材の受け入れに関するマッチング支援、外国人介護職員の育成および定着支援の実施 ⑤介護現場のDX、ICT化の促進 <p>※介護職員数需給ギャップ R8 1900人</p>
	<p>○元気高齢者の活躍の促進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①元気高齢者の活躍の「活躍する場」として就労支援にも力を入れるよう、レイカディア大学の学生に対して就労支援機関（シルバー人材センター、シニアジョブステーション）の登録促進に向けた積極的な働きかけを行う。 ②長寿社会福祉センターは、今年度末をもって現行の指定管理期間が満了することに伴い、レイカディア大学の運営および施設管理が今後も円滑かつ効果的に継続されるよう、次期指定管理者の公正かつ透明な選定プロセスを確実に実施する。
	<p>○認知症バリアフリーの推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の認知症高齢者は、2025年に約4.8万人、2040年に約6.5万人と推計されている。2024年1月に施行された認知症基本法の趣旨である「認知症になっても、誰もが自分らしく暮らし続けることができるよう、県民の認知症の知識・理解の進化を図る。 ・認知症の人や家族との意見交換の実施 ・認知症の人や家族が安心して暮らすことのできる地域づくりのための支援 ・しがの認知症オレンジプロジェクトの実施
	<p>○災害対応機能の充実</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界団体等と締結している災害時応援協定について、協定内容の実効性を確保し災害対応機能の充実を図るため、 ①協定に基づく防災訓練を実施し、関係機関と課題等を検討する機会を設ける。 ②保健医療福祉調整本部における福祉調整機能を担う機関（福祉コーディネーター）の設置準備を進める。
	<p>○【見直し・効率化】【見直し・効率化】介護現場の業務効率化につながる電子化の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当課職員・介護現場双方の業務効率化を意識した手続きの電子化を進める

所属名	障害福祉課
	<p>○ 国スポ・障スポを契機とした共生社会づくりの一層の促進</p> <p>・国スポ・障スポへの障害者等参画の機会を創出する。 【オープニングイベントへの障害者の参画：30名以上】 【おもてなし広場への事業者出店：5事業所以上】</p> <p>目標： 【障害者理解を図る体験型ブースの出店】</p> <p>・共生社会づくり条例等の見直し検討を着実にしながら、教育、雇用等の様々な分野と連携し、共生社会づくりを牽引する。 【共生社会サポーター：200社以上、条例の普及啓発の強化】</p>
	<p>○ 地域でともに暮らせる基盤づくり</p> <p>・医療的ケア児者、強度行動障害のある方の支援の充実を図る。 【医療型短期入所事業所の開設促進：新規3箇所以上】</p> <p>・障害者支援施設等における災害対策を推進する。 【非常用発電装置等の設置促進・情報の見える化：上半期中】 【関係団体との施設間応援協定の締結：上半期中】 【運営指導におけるBCPの確認・指導：150か所以上】</p> <p>目標：</p> <p>・年末までに今後の信楽学園の在り方や方向性を取りまとめる。 ・滋賀の福祉を支える人材確保・人づくりを推進する。</p>
	<p>○ 多様な主体と連携・協働した就労支援の促進</p> <p>目標： 【県の優先調達：調達機関100%、金額36,000千円以上】 【工賃月額伸び：年2.2%以上】 【社内販売会等の開催：1社以上】</p>
	<p>○ 精神障害のある方への支援の推進</p> <p>・精神障害のある方が地域で希望する生活を実現・継続できる基盤の構築・充実を進める。 【自殺対策：SNSを活用した情報発信の強化、相談案内広告のクリック数30,000回以上】</p> <p>目標： 【ギャンブル依存症対策：早期介入方策の具体化】 【発達障害者への相談・診療体制の充実、教育福祉の連携強化】 【入院者訪問支援：全病院に訪問してニーズを掘り起こす】</p>
	<p>○ 新しい政策にチャレンジするための業務見直し・効率化</p> <p>・変化する社会課題や県民ニーズに柔軟に対応できるよう、前向きに業務の見直し・効率化を推進する。</p> <p>目標： 【事務の電子化：しがネット受付サービスの活用事務増加】 【紙決裁・供覧：事務負担に留意しつつ段階的に廃止】 【課員による所管施設等の訪問：少なくとも全員年1回以上】</p>

所属名	薬務課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○若年層献血の推進</p> <p>・若年層献血の推進を図るため、その前段階である献血学習の実 目標： 施率の向上を目指し高等学校への働きかけを強化する。 高等学校（公立・私立）における献血学習の実施率：80%</p>
	<p>○薬剤師確保対策事業の推進</p> <p>・インターンシップ事業および就学資金返済支援に向けた研修プ 目標： ログラムの作成等により、県内の薬剤師就業先の地域および業態 の偏在解消を図る。</p>
	<p>○県内製薬企業等への技術支援・人材育成</p> <p>・少人数での試験の実習、e-ラーニング、座学形式、ワーク ショップ形式などさまざまなセミナーを実施し、製薬企業への技 術支援・人材育成を行う。 製薬技術セミナーの開催回数：15回開催</p>
	<p>○【見直し・効率化】所属共有データの整理</p> <p>目標： ・所属共有データの整理を行い、不要なデータは削除する。</p>

所属名	生活衛生課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○上下水道の組織のあり方等に係る検討</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道の一体的運営方策について、市町の意見を伺いつつ関係所属（下水道課、生活衛生課、企業庁）で議論を進める。 ・移管にあたっては、保健所や衛生科学センターの連携について検討をする。 ・上下水道一体の組織体制を実施した都道府県から情報収集の実施をする </p>
	<p>○動物の愛護管理の推進</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護管理推進計画（第3次）（計画期間：令和6年度～15年度）に基づき、昨年度に引き続き多機関と連携した取り組みを実施し、実質的な致死処分ゼロを目指す。 ・次期滋賀県県有施設更新・改修方針策定において、動物保護管理センターの「移転」「縮小」について調整しており、令和7年度において動物保護管理センターのあり方（名称変更含む）について検討を行う。 </p>
	<p>○2025 国スポ・障スポ開催における関係施設の監視指導</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・国スポ・障スポに参加される関係者に提供する食事を調整する施設および関係者が宿泊する施設に対し、衛生指導する。（6保健所および生活衛生課）（対象施設） 大規模弁当調整施設：約1,500食/日/施設、3～5施設 中小規模弁当調整施設：約200食/日/施設、約60施設 旅館・ホテル約200施設（うち令和5年度、6年度に監視指導実施した施設を除く） </p>
	<p>○大規模・広域にわたる食中毒の発生防止</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・食品安全監視センターが所管する、大規模弁当調整施設や広域に流通する食品の製造施設に対して、専門監視を実施する。 所管施設：374施設 監視目標数：994許可 </p>
	<p>○【見直し・効率化】デジタル技術を活用した業務見直し</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術などによる申請等利便性向上 ・滋賀県衛生関係システム等の利便性向上 </p>

所属名	健康医療福祉部 医療保険課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○ 国民健康保険の保険料水準統一の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町納付金の精算制度創設に向け、国とも協議し、制度設計を進める（R8年度制度創設、R9年度実施）。 ・医療費福祉助成の国減額調整に対する繰入基準の統一を図る（R8年度各市町条例等改正、R9年度実施）。 ・市町独自の保険料減免について統一を図る（R8年度各市町条例等改正、R9年度実施）。
	<p>○ 国民健康保険の保健事業の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命延伸に向けて国保世代からのフレイル予防事業（特に新規事業である骨折予防対策事業）の基盤を確立する（R8年度～モデル事業拡大、R10年度全体的展開） ・市町、他保険者、医療機関との協議により、特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上のための新たな施策を決定する。
	<p>○ 後期高齢者医療制度の円滑な運営</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10期（令和8年度、令和9年度）の保険料改定に当たり、財政安定化基金への拠出について後期高齢者医療広域連合との早期の合意を図る。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について更なる推進を図る。
	<p>○ 【見直し・効率化】資料等の電子化を進め、課内資料の整理を推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料、課内協議資料の電子化と電子決裁をさらに進める。 ・県・市町業務担当者間の電子トークルームの試用により、効率的な情報共有、合意形成の方法について検討する。

所属名	医療福祉連携室
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○医療福祉拠点の実現に向けた取組の推進</p> <p>長年目指してきた医療福祉拠点の実現に向けて、人材養成機能、センター機能、賑わいの形成に一体的に取り組む。</p> <p>（人材養成機能） 「看護人材確保のあり方検討」の中で、将来の学生ニーズや関係者（養成機関、医療機関等）の意向も踏まえつつ、拠点における人材養成機能の方向性を再整理し、全体として打ち出すとともに、その実現に向けて具体の検討・調整を進める。</p> <p>（行政棟） 令和9年4月の供用開始に向けて、整備を着実に進めるとともに、入居予定団体とより良い関係を構築し、今後の連携した取組につなげる。</p>
	<p>○医療福祉のひとづくり</p> <p>それぞれの職種におけるひとづくりの目標や課題を改めて整理し、医療福祉人材の確保・定着に向けた全体のロードマップを検討する。</p> <p>目標： 今後見込まれる在宅医療、在宅看護のニーズの高まりに適切に対応できるよう、国の動向も踏まえつつ、医療・介護連携の取組のさらなる具体化を図る。</p>